



八五
6590
3-3

讚品

金比羅の傳く

すむれや神の後まうらるもす

物

スヌヌアヌヌヌヌナカノ
モ行リヌヌヌヌヌヌヌ
カヌヌヌヌヌヌヌヌヌヌ

鞍車人取次けや被は仰

古鑑房

ぬもひひきく松煙界

素文房



大アミタ

まぶろ

まきあはせをねまくあひれに和
あくのちよすみれれ乳 薫
瓢箪と鶴と鷺のねまで 羅浮

名録

むか戸禍とあむかと 順序
ゆうじと約一歩一橋間赤穂のまえと
行りとゆの門とまくおとまでなよ
うふははあくえまよとあくねの

ゆう景とあくわむをあらうと
里人のうへてせくくまくはと

ちうう角弓の軒あてのまち 古事記

今やとれとがる一月 五年

たまゆらとくとねくも

春繁

まきあはせをねまくあひれに和
あくのちよすみれれ乳 薫
瓢箪と鶴と鷺のねまで 羅浮

登録

赤穂

羅浮一物

吉牛

くまの散くまゆめ

日下とちりと山の音も

おまきやうに一ふのまがて

ひづれぬ散地アコ、さる

行路アコはゆむに枝ふねを

腰アコへやトはなす行つぶ

よとすまくすゆとく對面

吉牛

くまの散くまゆめ

日下とちりと山の音も

おまきやうに一ふのまがて

ひづれぬ散地アコ、さる

行路アコはゆむに枝ふねを

腰アコへやトはなす行つぶ

よとすまくすゆとく對面

吉牛

園の葉くらの散くまゆめの秋
井思
おまきやうに一ふのまがて

吉牛

其のままで列そひやまが月
とくゆやま坂の山へて佛
ゆきくうかじふきて海と鳥
飛ぶだれかあらはよ風す
おもは袖と身を擣ぶゆか郭
あゆの風のまゝまきめし
東風とみのうまがまめ日
ひやあくへむくとくとくとくの月
正貫 唐吉 雪舟

和詩

方

と葉れ義士の心ひく
れと聲くしと仰すかく
おねえとおとおとおとおと
磨けハもと代へたまく

○
翁の心とおとおとおとおと
た

翁のまちとおとおとおとおと

也

葉月れん先都よりうつはる
松の木の下にひまむく
月とよもへきたりすはる野外
たふよし紅葉の落葉小金山
幹すき枝葉すゑむむく

拾針吟

詠主もや月光に割きと船
の岸の邊

凡ての宿よりまやかせれ
ア月れんとくらむのち
た

竹居

ハヤシがちまかふくはる程
れこまゆいて見子と化すさん
とれは誰とあいがゆがゆが利
まわ一はまくらむれども

事よりひやれふらはがま
やうんはの難もすく後退の方れり
そはゆたかくせせらめり
怪ひ又驚くの筆あきをあきを
恐怖トハ正直の圖にあく

祀るもハくゐねりかへる
ニコの陰と鳥一族の氣と人の風と
感一旅の運命のあくべて
内風のあくべてり御舟に遙遠なる
もかそれうちも松葉の道途の
あくべく例くかひぐやなむ

月の旅宿のたゆとさうと社古
えあくべ泊者携りてえととくば
延とくくる海士型の旅宿

月の旅宿のたゆとさうと社古

月を泊

くわく十日と云狀のも

古書

今年おそれさせし縁やうと

おきのなと父とゆくと

おのゆくおはくはるく

おお

さうへ訓まへば やあめらる
行ひ
「切のくもあれはまれと
まつたまくの様う様ふせ
何不そやれ城もえて捨てま
月ちまに腰よすきは飯
新築の住と屋はまがく
ゆくねすれりと通
地主より解り得るまむも
翁

舟と水をば掉
振りぬかるとまよひゆ
きてかひぬとあがむとて
はせぬとてかくまるとて
船とわくとてかくまく
ゑのほのほとてかくまく
まはとてかくまく

あよわふにまよひと
うきもみゆきのあはば
あはまくとて凡のまこと
ありまかへり
あらはまくとて凡のまこと
行堂行

太
宗
集

内侍は賀 合本書

さきにと馬車のうちひをなとう
まわのあむててゆるゆるを
おなじやうぬきのねくよ
ひよせいかでいのり移りを
おこしゆがむと目めをまぶ
まぶたのねがまぶたひが
ゆれ

手かづかへばてかへむもふ槿

み宿

ふくれまされうちゆのれすと
そよう一・あよふかくま
おなれ・まく・野・むら

ゆる

まよ・ハ・経邦・まよ・まよ・まよ
田里のあま・麻・ゆる・まよ・まよ・まよ
かく・れと・まよ・自・まよ・の・通・刀・まよ・

ゆく・ゆく・や・ゆく・月・まよ

坊

稻の香に夕ゆ波ふゆる
古
夜の野やちくこらむ綾錦

古

追加

古里雅坊のりゆひまうこれゑ
ちかに袖とひれ葉月にゆる
あらう歎く神音のゑもん
むくねく

元々物と金をひてけりる

笠松
四維序

高家ふ故にへあじくも
古事記
又ゆれハ所極き方へかくも
順居
おゆきゆきおほれそゆきく
ホ立

大經も下書

笛庄雅歌

吹きゆれよ連き千鳥う耶
高家
あまにゆしよこかくお詫引
順居
角くよとさくよれうゆうせ

東丘
高家

西風すれすれ仕事の間じゆ
高島

詩國文通

もよおせひよる

、吸れの京羅（よしはな）に、ふ清水（きよみず）か、玉衣
うすすら含みゆくを、ほぢうや
よへいかひあくべきの子やうお
所おきかまくれば、仰て雨
ス門

山がや清いおのか、
あくらむ人おそててもやう
至れのむく、さむらめぐれ
少く、うよくおちりぬる
又かく無く解く様うふ
ねと、極手は音のうちつぶ
よ様やおののきよくと
おののきよくと

熊本
義重

四文

本草綱目
卷之三
中藥
本草綱目

卷之二

やくまくはややかうへり
かのよもととくとくわけぬ
をもきゆきとむむるねのかみ
えいがれりこのよせんりせん
まかとまくわけくわたエ
文都
のすゆとくとくめりりとく
まむわくとくとくのとく
文流
ははー様のよしる歎 一葉

さりゆ比りあはれに思ひ
せりゆされぬとぞ鶴やマ鶴川
万葉
はるかにゆきや雪に雪
さくさくとすすり育ゆのゆきふ 加茂 犬ら
御みてゆくにゆきふ月 田川 月
風やおほきゆく一
ふゆや雪ふきゆくとせゆ
そよぎゆくあかねの鳴うな 翠

吉田
野中
城内
ひそかにれんの月ねぐれ
すがやくまも寺山とらふ
久日や月は一とみゆきめ
名の傳てゆきやちのあ
能く人仰えども精大、うの
福喜やかくくわくはるを
ひそかにれんの月ねぐれ
すがやくまも寺山とらふ
久日や月は一とみゆきめ
名の傳てゆきやちのあ
能く人仰えども精大、うの
福喜やかくくわくはるを

おとづれや神うちおのとづれ

柳肥

まくらめのとがみのま

禁房

よしやひかくはる風とよら

布芦

ねゆふよと人見やまよ

千里

よしよしはなねやゆど

柏舟

はるてえのねのね

桂

よしよしわゆるよちり

島森

じゆよよよよよよよよ

高嶺

きみかみきみかみおもいせ

吉高

きみすみのせすうりあしきに

浦和

ひじりのねむりてつめのん

墨村

よしよしよしよしよしよし

吉野

よしよしよしよしよしよし

吉野

よしよしよしよしよしよし

吉野

よしよしよしよしよしよし

吉野

ひはりのまへにあがめ

五律

菊のまゝやまのりある處の

五律

鶴の御きみさへ 鶴伴一

七律

そ月かたのまへにあがめ

五律

う産か鶴のまへにあがめ

七律

まもやあらわすくらべ郭

七律

鳥のまへにあがめ

七律

わよか絆節とまづれのき

七律

秋葉
あはくやまふ凡がまくまく

五律

あゆのまへにあがめ

五律

あゆのまへにあがめ

五律

あゆのまへにあがめ

五律

あゆのまへにあがめ

五律

あゆのまへにあがめ

五律

あゆのまへにあがめ

五律

五律

物凡や度量にかゝる教訓ね

充月

神余
白川

かのじれんじや有りの徳をえ

孤介

えのむきの扱はぬ事あ

まよ

も筋と通つて筋を箇うわ

柳葉

ちくはく筋やあはれ筋に月

柳川

葉の筋のあはれかづくは

柳枝

うわくやまがすすみあら

柳葉

遠くや浦くわのま

宍道湖

おもかるやえでまくの声

白川
一賀

も解や行はれかづくはの筋

宍道湖

ぬうの匂ひやまくはの筋

宍道湖

やみの匂けくはやまくは

宍道湖

檢校ハ供の匂一やまくは

宍道湖

もゆや正月うてぬくい舞

宍道湖

被くゆふゆふゆゆやまくは

宍道湖

峰へて坐へる所の如きあつたは亦
あつたがの如き日乾と並んで置か
る一端店野と云ふ所也よハ 由山
塔山やえひ御月の草車 塔ニ
あらわゆる物のトキをもむる
御山に立たれて又破むお酒ト
桜の花をうなづく事もあらぬ
故にかがみよとて酒をもる
貴

板屋や御室の持る所もさへ
數多かるが源氏の御室の所
せも自とほゆてまわはりて
小舟に舟や世の事より
奉すて墨へぬる人ハか
二ノ月と云ふの事の如くと
一せんが生へるがと自ら 大須
登りやむるが一秋の月 可

峰の枕もすむまことにまくら

如葉

かはるにゆきとよしめくらのち

如葉

ぬいの傘とよかと壺うね

如葉

鶴のあくまつひよすの霧旅

如葉

ほややまくまむかわてすくね

如葉

毎日も入るし古ゆじくへ

如葉

ゆきの柳とのよしテクふ

如葉

えきたいまがお月

如葉

冬月や井口をまくらのれ

如葉

凡ての屋をねりこむべ

如葉

まくらのてくらは誰も

如葉

まくらのあくは十六月今

如葉

さゑ鳥やともに新芽草

如葉

うの山が声あらん柳のあ

如葉

木きし詠かみの教

如葉

まくらのほづれの裡

如葉

秋うきやせまひまといれす オサ
而えややまくまやふて傳至産、 佐喜
電のほて海幹しもひのす 里凡
正橋やまくと橋をくのあと 以ぶ
龍以て中へ通ちりかく爲月 赤野
往橋やんの坂しんをあう 素乾
お行のア例、かく汝ナシよ 宗
吹やそくおさへニリ呈 文わ
吹送

中村

赤野素乾

きみキヤソヤス萬能がれのま
えむくつねまーへんあのみ
ホシキく難に却く者あられ
えうきくかのこえや萬能
聚らて行さる内の甚きふ 佳文
きまたにかのむゆ神清 上川口
而教有のあたび一母 家代
人をほくはとかひのくせば 三日

方が身をもてて見ればト
あはれやかきの一个も行
かずやまくちゆきて買ふやあやめま
渡りやれども、ハ格比も

ちゆうか月はまわるのを
さくら鳴らに連りあら楠の内
すく乾くゆきはふれぬ首
ゆゑは雪が似合ひぬやうむ
竹の音もさよやぬ
鷦目はよしゆく
わくにゆくや柳の弓より
萬の葉れどはや軒の向
弓雄

あめむしはりきよ菊のよひれ
川内
りむらふくまびらかねの鐘
夷雅
さくや色真葉に匂ちてみる
東何
せりりうるいもひまくす
た一
くわくひりたとひておひる
吟成
停西ニセカシテ一巨鐘ノ而
停西
ル一ツの心の鐘を入に、川端
荷香
あう音に中に鳴ア一小さうれ
如羅

少びひきと化カヒ十夜了南孟津
少
新の夜るくあらえひらう耶
三阿
押ハス音ふのよし木端人
社水
あかきてすゑひらくや奈王室
浦山
水をもひま捨れど野トハネ
冠星

ぬきむかひとハくわいた汝テ多
おれ
おきや風のねまうあひ
成風
魯林

トニ、おやしるはるさる小柄桃原二葉

まはなせしとあらすじをばと 寓一

ふみのあらう、穀田の打けぬ

石丸

れのねや鳥鳴きよるえ難産

香山

ひより傘比等桃原六月

山毛

門柱や砾のよよまた柳桃原

可圭

小あやてよよきわがる弦桃原

弦和

えうややきにいざる種桃原年者

種外

かくやくとよよくわがる

大河

おうしにまやかの風背

起立

川おや様と風音桃原の中

佳乐

むらむとよよくわがる

浅川

ゆめゆや月と風との向桃原

古丁

ゆめゆと葉と新月と月の向桃原

完吟

ゆめゆと月と葉と新月と月の向桃原

伊勢川右

ちくくと月と葉と新月と月の向桃原

清風

ゆめゆと月と葉と新月と月の向桃原

大奇

夢ゆかくと月と葉と新月と月の向桃原

石川日貫

孤鶯

アリケ利きぬあまくわらものに な文

を取るたの黒鈴やとせ自身

井原

高廣

覺よもよみゆきやもくの雨

モリサク 残愁

能くやまとよ稚のニセサ节

士文

嘗むるもとみのんやれ 嘲

長舟

吾こそやうたの絶やれの確

五 五

か魚や聲はるゝ潮のそ

松代 五

薫アソヒと萬葉かくひえに捨て

喜

少すめのゆるたまのからうか

金華

久月やスホムキシおぬ通ひ

寄生

不仕合みどりおぬめお早月や

想

セウシ子トシヒアテ實ふ離る

因房小松 節二

乙未もキタヒヌマヨシ一往長う

可

あれのちくひてあこれあ

芳枝 千苗

えねのそとあとかく 小袖

可

草おやうてあとあら葉 千苗

千苗

改名をもつておまかせをあはせ
許やとのうなづかふれんとめ
木はよのまへせせとおまかせ
木中桃子房中
木里や月夜もまへぬる
木山傳
木と森の窓初叶芳水
わわや先とまゆがた男や
呑井松阪
ほくちゆにやまとまゆ
クニヤマヤマキ新玉毛蓮と
表す

筆にまゆの浦を西や郭二
塔幅や庵の浦の隣三
もとハ林とみて重なるま、羅十
りのーもの浦を西や林の新
表す
庵のむかしの浦を西や林の新
和文

山あらへおとほれむをせ梅
テ火
ほくさくはあくわかうこ草若
似葉
せのややてに草花おほ様
叶せ
外サヌもみまくすまわのあ
九あ
神のあらむる神宮のあら森外
室室
是人共に御神社や瓦をさり
あひ
くわが一びの事とまづ物の而
御葉
翁おも教ひゆくとほれ
は翁

芳香の心よ庵や福ゆ庵
亦と
乾龜ようきて庵や延之^{ミモ}と
いふの庵や御神社^{ミモ}を仰
山^{シマツ}の庵や御神社^{シマツ}を仰
まちやあま初め海の上
春^{シマツ}の庵や御神社^{シマツ}を仰
行のよし野^{シマツ}あんやたのま
新子
やまとの山^{シマツ}まつがふ
文彦

かりかなれとすむらの秋 月例
序ねにすまよひとれのと 桂下
ゆき扇もてに扇とづくらひの月 月例
この月や月は二月と初春葉 月例
和わら小ゆの聲や別き あ 花之
ありや小ゆは声の音よ弱 渥六
がと寒くさを挿み因る 二十
アシカヒルはわすやねの聲 西例

やまにあれとすむらのやえすま
夜まくとおととやけせ事 月桂下
まつまくとおとと月 月桂下
あらまくとおとと月 月桂下
あらまくとおとと月 月桂下
うふふとおとと月 月桂下
まつまくとおとと月 月桂下
うふふとおとと月 月桂下

又絶と入る事と云ひ候

付二

かくはよれたのを病めまづ而
をハ前後てぢりを 梅蝶

字絶

爲事やらかのまづかすれ 文季

一通あつては一通の事とすけ

正霜

お凡の事あつまつて月詠

名古屋 喜久

年辛

ちよびと序せの凡ての事

年辛

おなじやむとての事と達の事

年辛

お義わく人をもあへふう

朝靄

近加

笠井柳川 玄胤

えくくはく而ひ事あへまづかす
よし、あく機の事のせられ、
を振ゆせあく事あく事

イヨ川口 長益

大から様の多き様に
かくたく事あふるあふる

又やううあらゆ
をのれいは近か
探して古集のねこ
アリカナトウタモト

アリカナ

祀筆

祀文
祭文

書林

まち林

野田治兵衛校

